

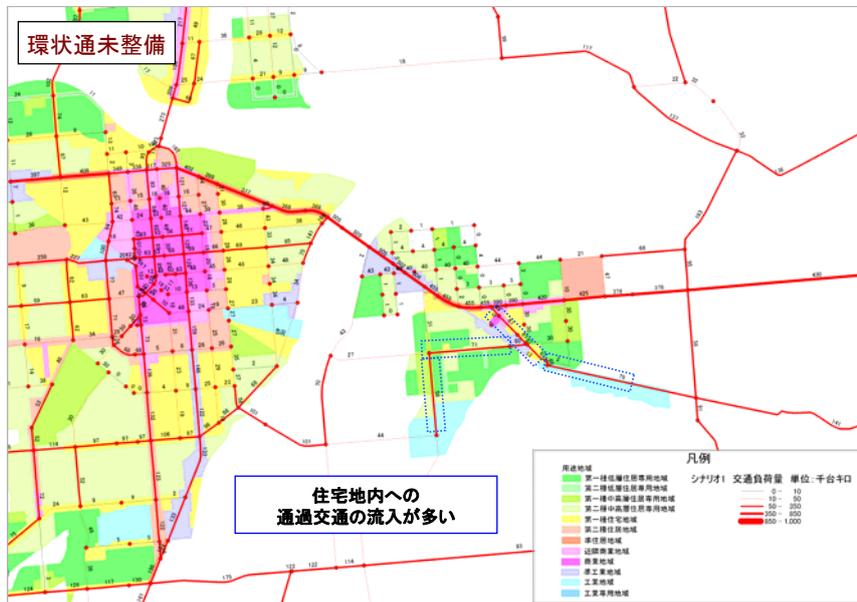
8-3 安全・安心な暮らしを支える交通施策

安全・安心な暮らしを支える交通施策としては、交通事故安全性を向上させることと、交通弱者対策を進めることが重要となる。主に、幹線道路網のネットワーク化を図ることによる道路機能分化を進めることやこれにあわせて自転車歩行者ネットワークの分断の解消を図ることが必要であり、高齢者ドライバーへの安全対策や公共交通サービス低下地域などへの多様な運送サービスの展開などが必要となる。

8-3-1 道路交通関連施策

1) 都市軸（4放射1環状）の整備推進

都市軸（4放射1環状）を整備することで、住宅地内の通過交通を排除するなど、道路機能を適正に発揮する道路網を構築し、安全性を向上する。



資料：H17 帯広圏 P T

図 8-3-1 圏域環状整備無ケースの交通負荷量



資料：H17 帯広圏 P T

図 8-3-2 圏域環状整備有ケースの交通負荷量

2) もみじマークの普及啓発と駐車環境の改善

公共施設における幅広の高齢者用駐車施設の整備促進と、商業施設等での普及啓発を進めるとともに、もみじマークの普及啓発を図り、高齢者ドライバーの安全性を向上する。



写真 高齢者専用駐車場（北広島市マックスバリュ）

2 高齢運転者対策等の推進

現状

- 75歳以上の高齢免許保有者数の増加
免許保有者数 約258万人(H18) ……10年前の約2.8倍
- 75歳以上の運転者の高い死亡事故発生率
75歳以上の第1当死亡事故件数は74歳以下の約2.3倍(H17:約2.7倍)
- 高齢運転者標識の表示促進の必要性
75歳以上の高齢運転者標識表示率 35.3% (アンケート調査結果)
- 聴覚障害者の免許取得に対するニーズ



対策

- 75歳以上の高齢運転者の免許証更新時における認知機能検査の導入
→ 検査結果に基づいた高齢者講習の実施により、安全運転を支援
→ 検査の結果、認知症の疑いがある場合には、臨時適性検査を実施
- 75歳以上の高齢運転者の自動車運転時に高齢運転者標識の表示義務付け
- 高齢者講習を受講することができる期間を更新期間満了日の6月前に延長
- 聴覚障害者に関する規定の整備
・ワイドミラーの装着等を条件として普通自動車免許を付与
・自動車運転時に聴覚障害者標識の表示義務付け

図 8-3-2 高齢運転者の交通事故対策（改正道路交通法の概要より）

3) 自転車・歩行者ネットワークの充実

自転車・歩行者ネットワーク化を促進するとともに、自転車・歩行者の走行分離についても検討し、それぞれがより安全に安心して走行できる空間の確保に取り組む。

また、歩道の段差、勾配、幅員等の移動の障害を除去し、誰もが安全で安心して利用できる、歩行空間を確保する。

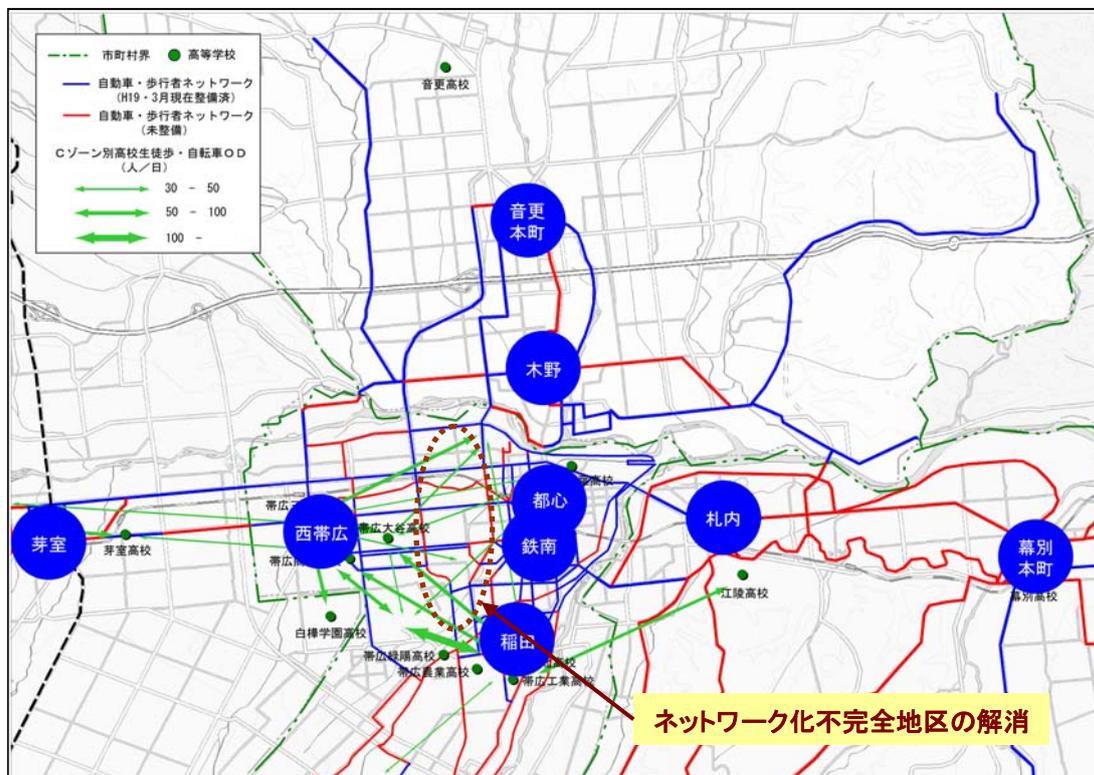
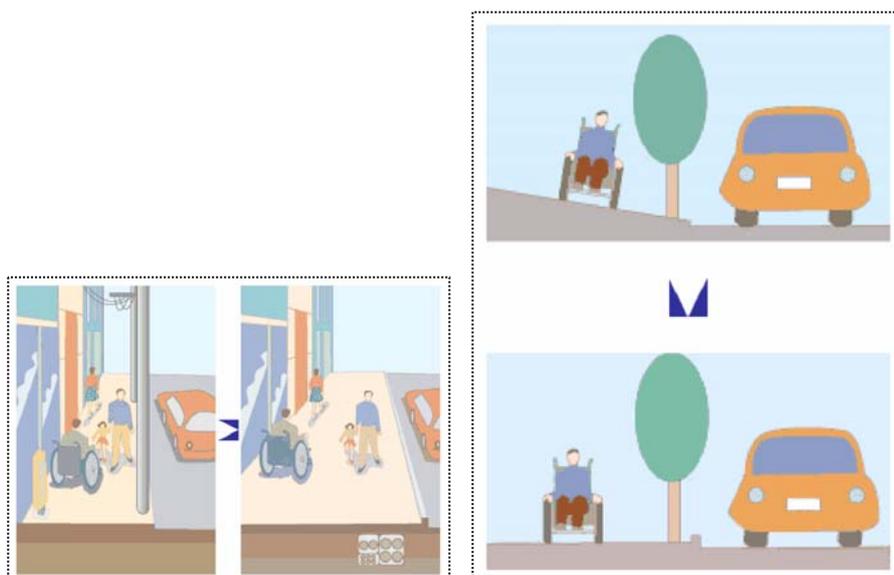


図 8-3-3 帯広市の自転車・歩行者ネットワーク



資料：歩行空間のバリアフリー化の取り組み 国土交通省

図 8-3-4 歩行空間のバリアフリー化のイメージ

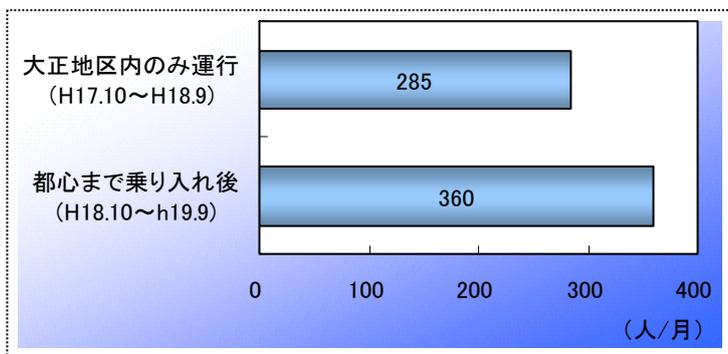
②乗合タクシー（あいのりタクシー、あいのりバス）の推進

大正・川西地域での乗合タクシーを今後も維持し、便数やルートの見直し、利用者ニーズに合わせた運行など、更なるサービス向上に努める。



あいのりタクシー

毎週月曜日～金曜日
一人一回 400円～1,000円



資料：帯広市

図 8-3-5 あいのりタクシーの利用状況（月平均）

※これまで、乗合タクシーの運行エリアは帯広市大正地区内のみであったが、H18.10より帯広都心への乗り入れを開始

③病院バスの普及啓発

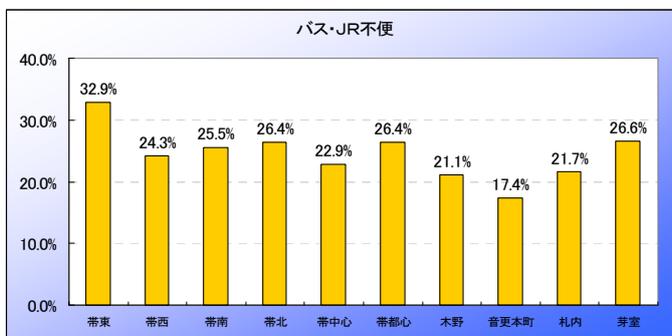
バスサービスが低い地域などにおいては、病院バスなどの更なる普及啓発を進め、高齢者などの交通弱者の利便性の向上を図る。

・帯広徳州会病院バス

帯広徳州会病院健康友の会では、平成14年10月より患者様送迎バスを運行しており、外来受診に限らず当院をご利用される方はどなたでも無料で利用可。

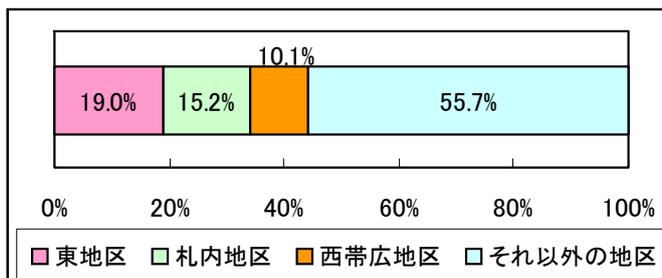


写真 帯広徳州会病院バス(音更町)



資料：H17 帯広圏PT 個人意識調査

図 8-3-5 通院時のバス・JRが不便な地域



資料：H17 帯広圏PT調査

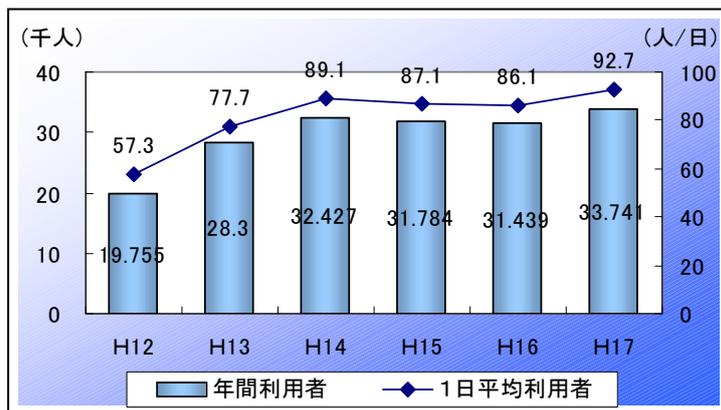
図 8-3-6 帯広東地区への通院に不便を感じる居住地構成比

④コミュニティバスの充実

音更町におけるコミュニティバスは、生活を支える足として活用されていることから、今後もその維持・充実を図る。

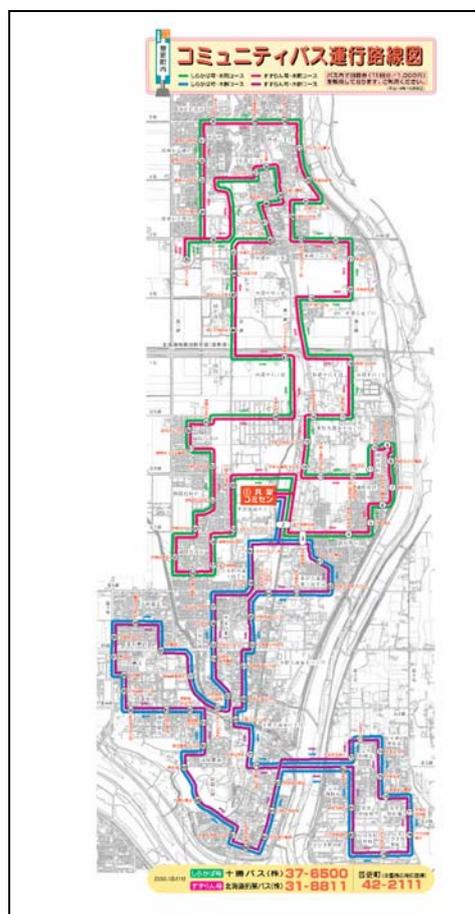
▼音更町コミュニティバス

平成12年4月から運行を始めた「音更町コミュニティバス」は、現在“住民の足”として利用されており、1日当たり約100人の利用者となっている。



資料：音更町

図 8-3-6 音更町コミュニティバスの利用状況



資料：音更町HP

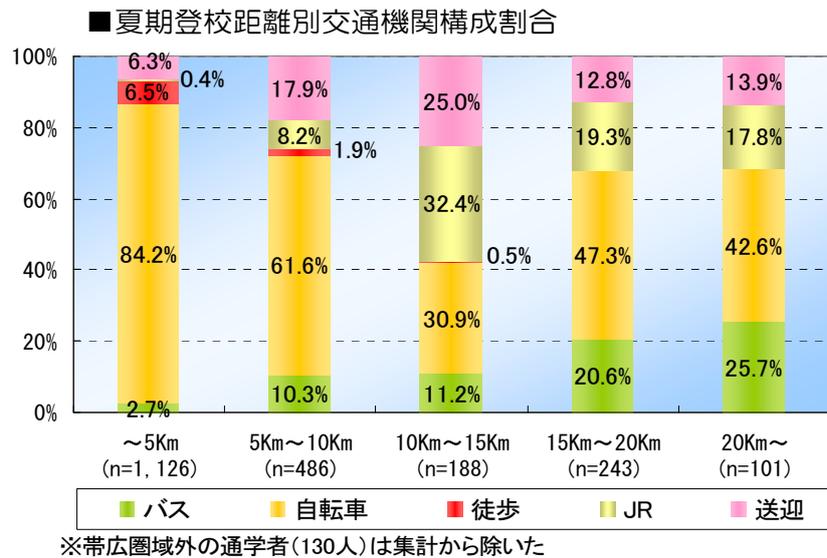
図 8-3-7 音更町 コミュニティバス

2) 通学交通の利便性の向上

通学交通を支えるためのスクールバスの利便性を更に強化するため、現在実施している雨バスの運行や運行時間の見直し検討、スクールバス空白地域の解消について通学実態を踏まえて検討し、更なる通学定期割引制度の拡充が可能か検討を進める。

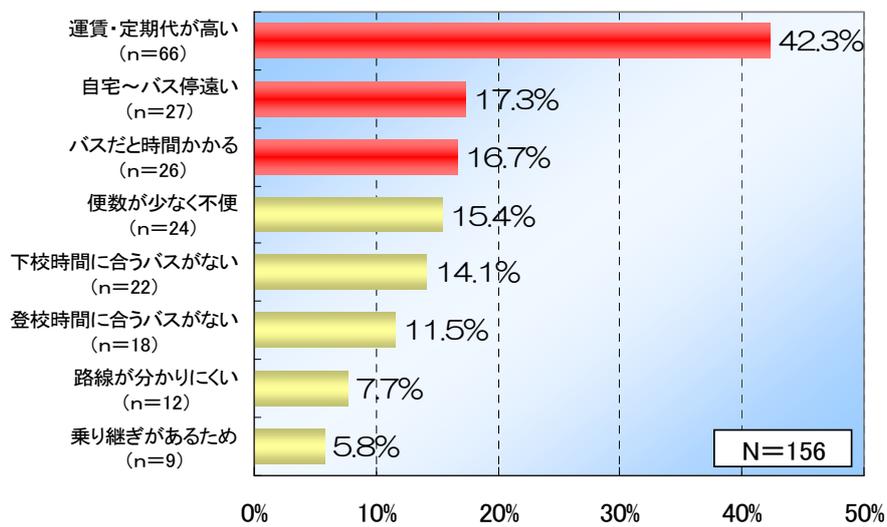
▽通学定期の割引制度

拓殖バスでは、長距離通学者を対象とした定期割引制度を実施



資料：H17 帯広圏通学実態調査

図 8-3-8 距離別の分担率



資料：H17 帯広圏通学実態調査

図 8-3-9 徒歩・自転車通学者のバスを利用しない理由 (10 km以上の徒歩・自転車通学者)

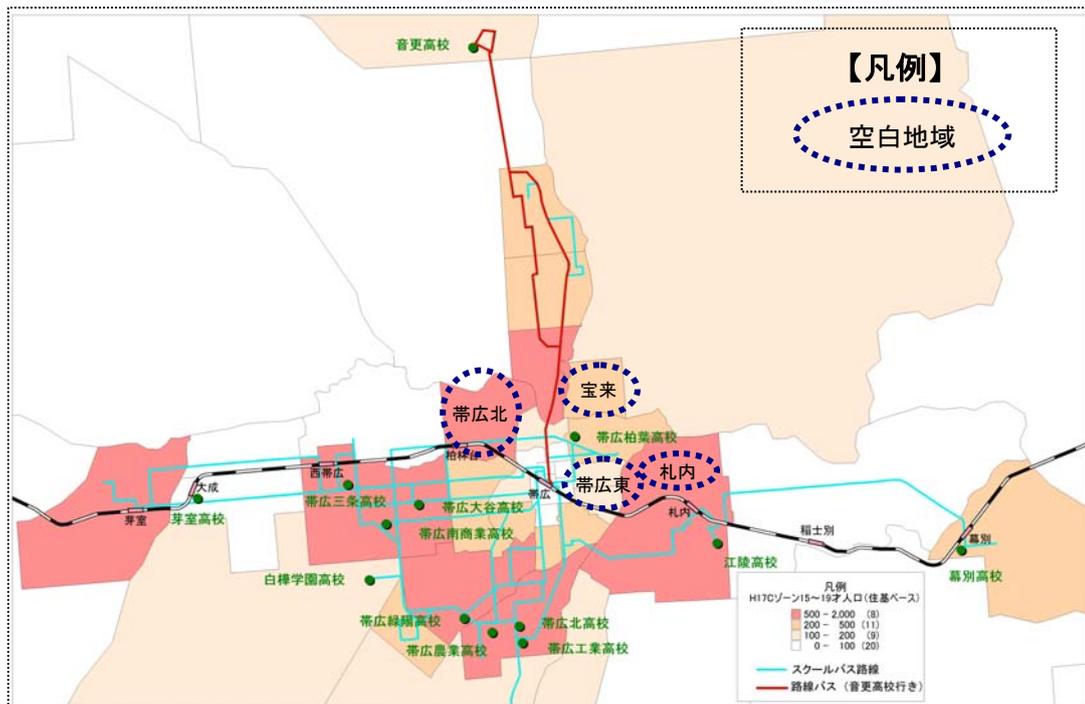


図 8-3-10 スクールバスの路線網 (H17 現在)

3) 低床車両バスの充実

交通弱者の利便性向上のため、バリアフリー新法に掲げる平成 27 年度目標導入率 100%達成に向けて低床式バスの導入促進を図る。

▽移動等円滑化基準

- ・乗降口の幅は、80cm 以上であること。
- ・床面の地上面からの高さは、65cm 以下であること。

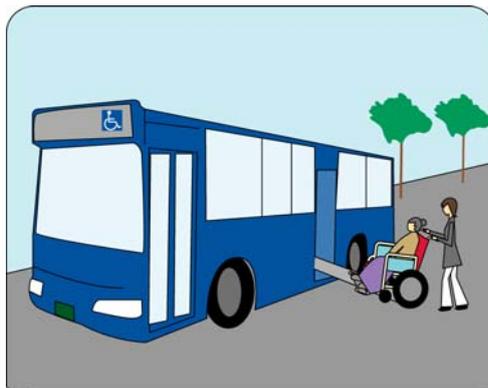


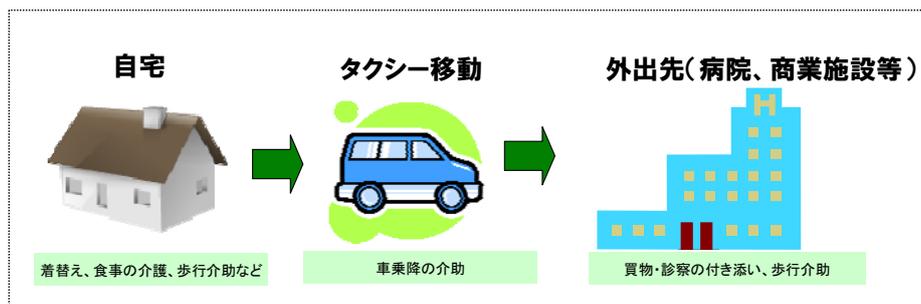
図 8-3-11 低床車両バスのイメージ

4) 介護タクシーや代行サービスの充実と積極的なPR

高齢者にとって、ドアツードアサービスも非常に有効であることから、介護タクシーやタクシーによる買い物代行サービスなどの充実を図るとともに、制度のPRを進める。

▼介護タクシー

ヘルパー資格を持ったプロのドライバーが外出の準備から外出先での介護まで、安心頂けるサービスを提供。



⇒タクシー移動時間を除き、介護保険が適用



写真 介護タクシー ((株) 全国介護タクシー協会HP)